

■榎本武揚 軍人・政治家。幕臣として箱館戦争まで主導しながら、新政府で多面的な活躍、海外移民も推進した。

えのもとたけあき

・ ・ ・ ・ ・ 1836= 江戸下谷の生れ。父は備後の出身であったが、秀才で江戸に出、代々將軍家直参の榎本家に養子に入り、幕府天文方に出仕するまでになった。妻が病死し、武揚はその再婚後に生れた。

大塩平八郎乱1837= 1歳：

利発で温和、学問好きで、

天保改革弾圧1842= 6歳：この頃には、儒学者について学び始めた。

阿部正弘首席1845= 9歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1848=12歳：この頃、昌平坂学問所に入学。

ペリー来航・1853=17歳：

開国開港・ ・ ・ 1854=18歳：父に連れられ、二度目のペリー来航の黒船を眺望、その印象が深く刻み込まれる。また、蝦夷地巡検堀利熙の小姓として、蝦夷・樺太に出かけた。儒者になることを諦め、江川塾で兵学を学ぶ。

松下村塾・ ・ ・ 1856=20歳：長崎海軍伝習所に第二期生として派遣され、

五ヶ国条約・1858=22歳：*卒業して、江戸に戻り海軍操練所教授となり、名前も武揚と改める。

桜田門外変・1860=24歳：父が死去。

生麦事件・ ・ ・ 1862=26歳：幕府最初の海外留学生として日本を出発、船の難破などで10ヶ月もかかって、

8月18日政変 1863=27歳：オランダに到着し、
_オランダ語訳「万国海律全書」などでの航海学をはじめ、自然科学、法学などを広く学び、

薩摩藩士密航1865=29歳：日本が外国に建造を発注した初の軍艦開陽丸が現地で完成したことから、

薩長同盟・ ・ ・ 1866=30歳：開陽丸の日本への回航にあわせて帰国の途につき、

大政奉還・ ・ ・ 1867=31歳：横浜に到着。その間に日本は維新に向けて大きく変貌していたが、結婚し、
明治維新・ ・ ・ 1868=32歳：*徳川新体制のもとで海軍副総裁となり、江戸開城後も開陽丸の引渡しを拒否、主力艦を率いて北海道に渡り、蝦夷全域を占領して蝦夷島総裁に選ばれたが、暴風で開陽丸を失い、

戊辰戦争終・1869=33歳：新政府軍の総攻撃の中、降伏(五稜郭の戦)。武揚の人材を惜しむ黒田清隆らの差配で、丁重に扱われ、獄中では、あたかも塾の如く勉学にいそしみ、産業技術を伝える書「開成雑粗」を著し、

初の日刊新聞1870=34歳：また、福沢諭吉の尽力で母とも最後の対面が実現。

廃藩置県・ ・ ・ 1871=35歳：母が死去。_処刑すべしという長州派に対して、薩摩派が身を張って赦免を嘆願し、政変もあって実現、

学問のすすめ1872=36歳：*ついに~~出獄~~。黒田清隆が創出し次官となっていた開拓使に出仕することになる。

明治6年政変 1873=37歳：前年、朝鮮の鬱陵島海域を調査した軍艦天城の隊員から、同島に生息する山猫のつがい~~を~~贈られ、これを猫の書画玩具の収集で知られた仮名垣魯文に贈るも、すぐに死んでしまったらしい。

金属鉱山や炭鉱の発見、榎本農場の開墾など、北海道開発をてがげ、マリア・ルス号事件で知られる国際問題に発展しそうな事件を取りしきり、清国労働者を解放するなどしたが、外国人顧問団と相容れず、

佐賀の乱・ ・ ・ 1874=38歳：海軍中将兼特命全権公使としてロシアに派遣され、

初の民間工場1875=39歳：樺太・千島交換条約を締結し、樺太を譲って千島を得るなど、決着をはかる。

さらにロシアに止まり、西ヨーロッパを視察するなど情勢分析につとめた後、

大久保暗殺・1878=42歳：帰路旅行馬車でシベリアを横断し「西比利亜日記」を記す。

琉球処分・ ・ ・ 1879=43歳：東京地学協会を設立、初代会長となる。外務省の条約改正御用掛の後、

・ ・ ・ ・ ・ 1880=44歳：_旧幕臣としては異例の海軍卿という栄職に任命される。それだけ彼の実力が認められていた。

明治14年政変1881=45歳：

新体詩抄・ ・ ・ 1882=46歳：_日清両国の対立が激しくなると、清国駐在全権公使に任命され、

内閣発足・ ・ ・ 1885=49歳：天津条約では伊藤博文大使を助け、逓信大臣となる。{今日新聞}の読者投票“現今日本10傑”の一人。

国民之友始・1887=51歳：_続いて農商務大臣、子爵。日本気象協会を設立して会長、

初の対等条約1888=52歳：_黒田内閣で文部大臣。日本電気学会を設立して会長したほか、15に及ぶ学会等を設立、

帝国憲法発布1889=53歳：黒田内閣が崩壊。妻が死去。有志による東京300年祭の委員長。

帝国議会始・1890=54歳：山県内閣で文部大臣を罷免された。

足尾鉞毒始・1891=55歳：_副島種臣らと東邦協会を結成し、東洋南洋の地理歴史などを講究。松方内閣の外務大臣、移民局設置。旧幕臣の子弟に学資を出すために設立された徳川育英会の初代会長でもあったが、学資を出すのではなく自ら学校を持つべきであるとし、農業科を設け、後に東京農業大学になる。

大本教・ ・ ・ 1892=56歳：外務大臣を辞した後、移民局は廃止されたが、移民事業を続ける。_伊藤内閣の農商務大臣になる。

郡司千島探検1893=57歳：_殖民協会が発会し、その会長。創設されたスペイン語学会会長に推される。

日清戦争始・1894=58歳：

_以後、いわゆる“エノモト移民”を推進。

白馬会・ ・ ・ 1896=60歳：_松方内閣でも引き続き農商務大臣をつとめたが、

八幡製鉄始・1897=61歳：*ラテンアメリカ移民第一号がメキシコに入植した年、足尾鉞毒事件の責めを負って辞任。

子規句歌革新1898=62歳：_工業化学会が設立され、その会長。

Bushidou・ ・ ・ 1899=63歳：

_以後、ラテンアメリカ各地へ移民が続けられるなか、

日露戦争終・1905=69歳：

自宅に籠りがちになった晩年も、_学会等の会合には出席し、

アヲヲ* 創刊・1908=72歳：_病没した。

山本厚子「榎本武揚」、産経「日本人の足跡2」、市原麻里子「天保の雪」、「日本史を変えた人物200人」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、